

起業家から学び 課題解決力を磨く



武蔵野の面影を残す木々の間を縫って小川が流れる自然豊かな武蔵大学キャンパス（東京・練馬）。ここでは日々、4学部約5000人の学生が専門知識を得ようと勉学に励んでいる。それと同時に大学が重視しているのは、各専門知識をつなぎ合わせて融合し、社会課題を解決していくために協働できる実践的な人材育成だ。起業家との対話やビジネスプランコンテストなどを組み入れたアントレプレナーシップ教育は、その代表的な取り組みだ。高橋徳行学長と武蔵大学を長年サポートしてきた松井利夫アルプス技研創業者・最高顧問が、「総合知」の重要性について語り合った。

武蔵大学 学長
高橋 徳行氏

1980年慶應義塾大学経済学部卒業、米国バブソン大学経営大学院修了。国民生活金融公庫（現・日本政策金融公庫）総合研究所の主席研究員を経て、2003年武蔵大学着任。専門はアントレプレナーシップ。22年4月学長に就任。

対談

アルプス技研 創業者・最高顧問
松井 利夫氏

1964年工学院大学専修学校電気科卒業。多摩大学大学院経営情報学研究科修了、経営学修士（MBA）、武蔵大学名誉博士。1968年アルプス技研（当時、松井設計事務所）創業、代表取締役社長、会長を経て、2019年取締役を退任し現職。



高橋 大学教育の主流は専門知識の深化で、もちろんそれは非常に重要ですが、一方でこれだけ世の中が複雑になつてくると1つの専門知識だけで社会課題を解決するのは不可能です。複数の専門知識を融合させ課題解決に挑むことが必要で、それは1人ではできない。武蔵大学では他者と協働することで「総合知」を高める教育をしたいと考えています。そのためにはアントレプレナーシップ（起業家精神）を学ぶことが重要だと思います。

経営者と直接対話

松井 もちろん個々人の専門知識は重要で、私自身50歳を過ぎてから大学院で経営学を学び修士を取得しました。ただ、日本の高等教育を見ると、少し理論偏重の傾向が強いと感じます。起業家は「から組織をつくって事業を起こします。その過程では何人もの人の知恵をつなぎ合わせる必要があります。私は北海道帯広市や新潟県南魚沼市で地方発のスタートアップを支援する活動もしてきましたが、若手経営者には常に理論と実践の双方を視野に入れて他者の意見に耳を傾け、「総合知を学べ」と言ってきました。理論性の高いビジネスで理論6、実践4の割合が多いですが、実務分野の高いビジネスではそれが逆転します。どちらも大切で、理論先行型では起業や会社経営は成功しません。

高橋 武蔵大では起業家と直接対話できるアントレプレナーシップ講座も設けています。大学の単位となる正規授業の中で、トレジャー・ファクト

リー創業者の野坂英吾さんなど著名な起業家を招き授業をしてもらいます。授業後はお弁当を食べながら、起業家と学生が対話できる機会を設けます。学生たちは目を輝かせて話を聞き、活発に質問をしています。幅広い人脈をお持ちの松井さんは、講師招へいでも協力いただいています。

松井 順調に成功した人の話だけでなく、失敗を経て再起した起業家の話などにも聞ける場を設けようと思つて協力させていただいています。学生には失敗談も含めた話が本場に役に立ちます。

高橋 松井さんに審査委員長をしていただき毎年2月に「武蔵大学ビジネスプランコンテスト」も開催しています。今年度のコンテストで5回目となります。応募は武蔵大以外の高専、大学、大学院の学生も可能です。さらに地方の課題解決を目的とした学外活動も展開しています。そこでは、地方自治体職員やアルプス技研社員、他大生を交えてアントレプレナーシップによる地方活性化策などを論じ合います。つい最近も軽井沢で1泊2日の討論合宿を開催し、松井さんにもご参加いただきました。

事業プランを審査

松井 「ビジネスプランコンテスト」に関して、自分の描く未来像をプレゼンテーションという形で発表する場を与えてあげることは、学生にとって大きな励みになると思います。受賞者（大賞は松井利夫賞、賞金100万円）に「君も10年後には立派な社長になれるぞ」と声を掛けると、とても喜ばれます。もち

ろん、実際に事業を起こせばすんなりとはいきませんが、夢や希望も重要ですから。高橋 起業の過程では苦境に陥ることもあると思いますが、松井さんはしばしば「ウェルカム・トラブル」という言葉を使われますね。そうした胆力の大切さも、学生に伝えられればと思っています。

松井 もちろんトラブルや挫折はないに越したことはないですが、起業して会社を成長させていく過程では苦境に直面することもあります。私も大きな壁に3回ほどぶつかったことがあります。苦境を乗り越えてこそ進歩します。一度は妻に離婚届を渡して「市役所を持つていく準備をしておけ」と言ったことがあります。あの時は妻に責任が及ばないように、離婚届を提出した翌日に倒産発表をしようと思っていました。幸い最悪の事態は避けられました。が、今思い出しただけでも冷や汗ものです。経営には身近な人の協力が大切なのです。

株式の店頭公開直前に主幹事証券会社が延期をほのめかし、懇願したこともありましたが、いくら理不尽だと思つても、起業家は頭を下げざるを得ない時もあります。それも含めて実践力だと思つています。地方の起業家と話をする際なども、こうした生の体験談を話すようにしています。まあ、ある段階に達すると苦境にも慣れてしまい、大抵のことは何とかなると楽天的になります。トラブルは確かに自分を成長させる試練にもなるので、その意味では「ウェルカム・トラブル」ともいえます。

応援する人材育成

高橋 「最近ちゃんと嫌われているか？」というのも松井さんのよく言われるフレーズですね。あの言葉の真意はなんでしょうか。

松井 学生に対しても地方の若手経営者に対しても、時に毒舌を吐くことにしています。「根性が足りない！」などと言ってしまう。中途半端にはめるよりも、心底相

手のことを考えて、嫌われても吐く毒舌の方が役に立つと思うからです。事業はきれいごとばかり言っているても成功しないですからね。経営者は、小さく嫌われて大きく好かれるものです。私もしばしば帯広市や南魚沼市にあるスタートアップ支援スペースで、若手経営者と交流をしますが、ここでも厳しい指摘をします。ただ、本心にやりたいことがある人はサポートします。以前は十勝の若手農牧家の海外視察を支援したこともあります。北欧のチーズ生産者などを訪ねて見聞を広め、日本に帰ってから自分の事業に生かした人もいます。80歳を超えた私にとってやる気のある若者をサポートすることは自らの夢でもあります。今後とも口も出して力を出していきます。

高橋 武蔵大でアントレプレナーシップを学んだ全員が起業家にならなくても、勤めた先で新しい挑戦を始める人もいます。また、起業家を応援したり起業を促したりする立場で働く人はかなり多いのではないのでしょうか。例えば地域の信用金庫に勤めたり、役所の地域振興課に所属したりすれば、志ある起業家に出会う機会が必ずあります。そんな時はぜひ、武蔵での「総合知」の学びを生かして地域での協働を実現するために汗をかくてほしいと思います。

松井 常に変革を意識して創造性を磨く。そのために「何で？」という好奇心を失わず、経営者の感性を磨き、それを原動力にして自己責任で人生を切り開いていく。武蔵大でもそんな人材をぜひ育ててほしいと思います。そのために私も、今後とも微力ながら協力させていただきます。と思います。

高橋 松井さんをはじめ数多くの起業家から、教育や研究分野にとどまらず生き方そのものを学ばせてもらいました。武蔵大の学生にも起業家からの学びを通して、世の中の課題解決に貢献できる人材に育ってほしいと願っています。

松井 学生に対しても地方の若手経営者に対しても、時に毒舌を吐くことにしています。「根性が足りない！」などと言ってしまう。中途半端にはめるよりも、心底相

学生が実践力を高めるためにはOBも積極的に協力するのが武蔵学園のカルチャーだ。同学園の武蔵高等学校を卒業した音楽プロデューサー亀田誠治氏は11月の大学学園祭「白雉祭」

で学生とともに楽しく舞台上でセッションを行った。12月には神田伯山氏（講談師）と石山蓮華氏（俳優・文筆家）の2人の大学OBによるトークイベントが行われる予定だ。

音楽プロデューサー
ベースист
亀田 誠治氏

学園祭で学生バンドと「かめきじ音楽祭」

11月2〜3日に江古田キャンパスで学園祭「白雉祭」が開催された。今年の目玉は2日の亀田誠治氏と学生バンドのライブ。観客約600人が集まり、ベースистでユーチューバーのたなしん氏の司会進行で盛り上がった。聴衆は亀田氏のベース演奏やトークも堪能した。



白雉祭での亀田氏（左）と学生バンドのセッション

大学が4月に出演を打診、高校時代から「武蔵愛」が強い亀田氏が快諾した。亀田氏は「あくまで主役は君たち学生」という姿勢で臨み、会合を重ねながら実行委員の学生たちの希望やアイデアを盛り込んで当日の進行を練り上げた。亀田氏とセッションした学生バンドのメンバーも、ボーカル、ギター、ベースなどパートごとに学生から立候補を募って決めた。「亀田さんとの会話を通じプロの仕事のプロセスを学んだ」（白雉祭実行委員長3年生の新島裕氏）と、学び多い体験となった。



武蔵大学が生んだラジオスターが母校に凱旋！ 一夜限りのYouTube公開収録イベント

12/2（月）20:00〜21:00、武蔵大学大講堂で神田伯山氏（講談師）と石山蓮華氏（俳優・文筆家）による公開収録イベントを実施予定。2人はともに武蔵大学卒業生で、かつラジオパーソナリティーという共通点もある。当日は会場にラジオ収録スタジオを設置して大学生時代の思い出トークや、現役大学生からのリアルな悩み相談などについて語る。参加無料だが事前予約制。

申込はこちら
（先着順）



※収録企画のため、会場内では参加のお客様がカメラに写り込む可能性がございますこと、あらかじめご了承ください。
※トークイベントの内容は、後日、武蔵大学公式YouTubeで公開予定。



講談師
神田 伯山氏
俳優・文筆家
石山 蓮華氏